

## 第五編 附 錄

## 第三十四章 本邦下水道ノ一例

## 名古屋市下水道

- (一) 排水系統 本市ノ地勢ニ從ヒテ大體舊城ト熱田神宮トヲ連ヌル線ヲ分水界トシニ大別シ總テ捷路ヲ經テ西部ハ堀川ニ東部ハ新堀川ニ排水セリ。
- (二) 下水方式 合流式ニヨリテ雨水、汚水、共ニ同一管ニ依リ排除ス。
- (三) 汚水量 本市汚水量ハ家庭用、工業用、其他用途ヲ含ミ一日一人ノ使用水量五立方尺ト假定シ豫定人口約七十六萬人トシ、使用水量ノ半分ハ凡テ八時間内ニ流下シ去ルモノトセリ、但シ現在ニ於テ屎尿ハ淨化裝置ヲ經タルモノ、外放流ヲ禁ゼリ。
- (四) 地下水量 雨水量ノ百分ノ一ヲ見込メリ。
- (五) 雨水量 一時間約四十五耗ノ降雨ヲ標準トシ Burkli-Ziegler 氏公式ニ依リ計算シタル流下量ヲ排除シ得ル事トセリ、而シテ統計上標準以上ノ降雨ハ約三箇年ニ一回ノ降下ニ當レリ。
- (六) 構造 凡テ土管及鐵筋混凝土管暗渠トシ、断面形狀ハ圓形ニテ平均三十三間ニ一個ノ人孔、燈孔ヲ設備セリ。

- (七) 側溝 道路上ノ雨水ヲ直チニ下水道ニ導クタメ其ノ兩側ニ側溝ヲ築造シ約二十間毎ニ一個ノ雨水樹ヲ設置シ本管ト連絡セシメタリ。
- (八) 各戸下水 各戸ノ汚水雨水ハ公道以外凡テ各戸ノ經費ヲ以テ暗渠或ハ開渠ニ依リ戸毎ニ或ハ數戸共同シテ下水本管ニ連絡セシム。
- (九) 施工區域 大正拾年附近町村編入以前ノ區域ノ内、東、西、中、全區及南區中、兩堀川ノ間ニ介在スル部分全體ニシテ其面積五百七十八萬三千餘坪、下水道延長拾八萬八千餘間(面積一千坪ニツキ三十三間弱)ニ達ス。
- (十) 下水排除方法 大部分、自然流下ニヨリ現在熱田ノ一部約十八萬八千坪ノ地區ニ限リ唧筒力ニ依リ排除セリ。
- (十一) 下水最後ノ處分法 現在ハ汚水雨水共ニ兩堀川ニ放流セリ、然レドモ將來處分計畫ヲ樹立スルニ當リテモ單ニ數條ノ汚水幹線ヲ増設スルノミニテ何等既設下水道ニ影響ヲ及ボス事ナシ。
- (十二) 布設費 總工費四百四拾七萬餘圓ニシテ内約三分ノ一ヲ國庫補助ニ仰ギ、約二百九十四萬圓餘ハ公債受入ヲ以テ支辨シ其他ハ全部市債ヨリ支拂フコトト成レリ。
- (十三) 起工、竣工 明治四十年創始、大正十一年度竣工ノ豫定。



第三十六章 單位

第二十表 (イ)

濾過速度ノ種々ノ單位ノ等價量

	百萬 米がろん 毎えーか -毎日	百萬 英がろん 毎えーか -毎日	米がろん 毎平方呎 毎時	英がろん 毎平方呎 毎時
1,000,000. 米がろん毎えーか-毎日	1.000	0.833	0.96	0.80
1,000,000. 英がろん毎えーか-毎日	1.200	1.000	1.15	0.96
1 米がろん毎平方呎毎時	1.045	0.870	1.00	0.83
1 英がろん毎平方呎毎時	1.255	1.045	1.20	1.00
1 立方呎毎平方ヤード毎時	0.869	0.724	0.83	0.69
1 吋, 垂直速度, 毎時	0.652	0.543	0.62	0.52
100 耗, 垂直速度, 毎時	2.566	2.139	2.46	2.05
1 米突, 垂直速度, 毎日				
=1 立方米突毎平方米突毎日	1.069	0.891	1.02	0.85

第二十表 (ロ)

	立方呎 毎平方ヤ -ど 毎時	垂直速度 時毎時	垂直速度 耗毎時	垂直速度 米突毎日, 又ハ立方 米突毎平 方米突每 日
1,000,000 米がろん毎えーか-毎日	1.15	1.53	39.0	0.935
1,000,000 英がろん毎えーか-毎日	1.38	1.94	46.8	1.122
1 米がろん毎平方呎毎時	1.20	1.60	40.7	0.978
1 英がろん毎平方呎毎時	1.44	1.92	48.0	1.174
1 立方呎毎平方ヤード毎時	1.00	1.33	33.9	0.813
1 吋, 垂直速度, 毎時	0.75	1.00	25.4	0.610
100 耗, 垂直速度毎時	2.95	3.94	100.0	2.400
1 米突, 垂直速度, 毎日				
=1 立方米突毎平方米突毎日	1.23	1.64	41.7	1.000

第二十一表

	ぐれーんす 毎米がろん (231立方吋)	ぐれーんす 毎英がろん (277立方吋)	十萬分中 部分	百萬分中 部分
1ぐれーん毎米がろん	1.000	1.20	1.71	17.1
1ぐれーん毎英がろん	0.830	1.00	1.43	14.3
十萬分中部分	0.580	0.70	1.00	10.0
百萬分中部分	0.056	0.07	0.10	1.0

第二十二表  
種々ノ重量及單位ノ等價量

	噸	cwt	封 度	立方呎	立方吋	英がろん	米がろん	立方米突
米がろん.....	0.00372	0.07455	8.33	0.133	231.0	0.83	1.0	0.00378
英がろん.....	0.00446	0.0892	10.0	0.16	277.274	1.0	1.2	0.00454
立方吋.....	—	—	0.03607	0.00058	1.0	0.003607	0.004329	—
立方呎.....	0.028	0.557	62.35	1.0	1728.0	6.23	7.48	0.0283
封 度.....	2240.0	112.0	1.0	0.016	27.72	0.10	0.083	—
cwt.....	20.0	1.0	—	1.8	—	11.2	13.44	—
噸.....	1.0	0.05	—	35.9	—	224.0	268.8	1.0
ウーラー.....	0.001	—	—	0.0553	61.0	0.22	0.264	0.001
立方米突.....	1.0	—	—	35.31	61028.0	220.0	264.0	1.0

### 第三十七章 下水道法 (明治三十三年三月 法律第三十二號)

第一條 本法ニ於テ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲メ汚水、雨水疏通ノ目的ヲ以テ布設スル排水管其他ノ排水線路及其附屬装置ヲ謂フ

本法ニ於テ築造ト稱スルハ新築、改築、及増築ヲ包含ス

第二條 市ニ於テ下水道ヲ築造セントスルトキハ其設計工費ノ收支豫算及起工並竣工ノ期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ケベシ、但命令ヲ以テ定ムル種類ノ改築又ハ増築工事ニ關シテハ此限ニ非ス

第三條 下水道ヲ設ケタル地ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市又ハ土地ノ所有者使用者若クハ占有者ハ汚水、雨水ヲ下水道ニ疏通スル爲、必要ナル施設ヲ爲シ、及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ市ニ於テ前項ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ其費用ヲ土地ノ所有者、使用者又ハ占有者ヨリ徴收スルコトヲ得

第四條 前項ノ場合ニ於テ甲地ノ汚水、雨水ヲ疏通スルタメ必要アルトキハ乙地ニ汚水雨水ヲ通過セシメ又ハ乙地ノ汚水雨水ヲ通過セシムルタメ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但シ乙地ノ爲ニ損害最少キ場所及方法ヲ選ムヘシ

前項ニ依リ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其ノ利益ヲ受ケル割合ニ應シテ工作物ノ施設及管理ノ費用ヲ負擔スヘシ

第五條 下水道ヲ築造シ若クハ之ヲ管理シ又ハ第三條ノ施設ヲ爲シ、若クハ之ヲ管理スル必要アル時ハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ之ノカタメ他人ノ受ケタル損害ニ對シ償金ヲ拂フコトヲ要ス

第六條 當該吏員ハ下水道又ハ第三條ノ施設ノ實況ヲ監視スルタメ其事ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 下水道ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市ニ讓與シ

又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニヨリ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セズ又ハ履行スルモ充分ナラズト認ムル時ハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スベシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非レバ之ヲ爲スコトヲ得ズ、但シ必要ノ時間内ニ履行シ得ズト、認ムルトキハ此限ニ在ラズ

第九條 前項ノ處分ヲナシタル時ハ市ハ市税ノ例ニ依リ其費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

第十條 市ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ町村ノ委托ヲ受ケ町村ノ全部又ハ一部ノ爲ニ其下水道ヲ築造スルコトヲ得

第十一條 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ下水道ノ築造ヲ市ニ命ズルコトヲ得

#### 附 則

第十二條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法ハ東京市區改正ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

第十四條 本法ノ規定ハ之ヲ區町村ニ準用ス

### (六十二) 下水道法施行規則 (明治三十四年七月 内務省令第二十一號)

第一條 土地ノ所有者使用者、又ハ占有者ハ左ノ區分ニ依リ下水道法第三條ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ但本則

第二條ノ場合ハ此限ニ在ラズ

一、建物アリ土地ニアリテハ之ガ建造及修繕ハ其建物ノ所有者

二、建物ナキ土地ニアリテハ之ガ築造及修繕ハ其土地ノ所有者

三、建物ノ有無ニ拘ハラズ之ガ掃除及浚渫ハ土地ノ占有者

第二條 市ハ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道ニ屬スル部分ヲ築造シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ、市ハ土地ノ狀況ニ依リ下

水道法第三條ノ施設ニシテ公道以外ニ屬スル部分ヲ築造シ又ハ管理スルコトヲ得

第三條 市ハ下水道ノ改築又ハ増築工事ニシテ工費一萬圓未満ノモノニ關シテハ下水道法第二條ノ認可ヲ受クルコトヲ要セズ

第四條 當該吏員下水道法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ル場合ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 下水道法第八條第二項ノ戒告及第九條ノ費用徴收ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條 下水道ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第四條第三項及第七條ノ規定ヲ準用ス

下水道及下水道法第三條ノ施設ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ規定ヲ準用ス

第七條 東京市ニアリテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

### (六十三) 下水道築造認可申請方(明治三十四年七月 內務省令第十一號)

廳府縣下水道法第二條ニ依リ下水道築造ノ認可ヲ申請セントスル下キハ左ノ規定ニ從ヒ圖面及書類ヲ調製添付セシムベシ

第一條 申請書ニ添付スヘキ圖面及書類ハ左ノ如シ

- 一、實測平面圖縮尺二千五百分ノ一以上
- 二、實測縱斷面圖縮尺長サ二千五百分ノ一以上高サ百分ノ一以上
- 三、排水管及排水渠ノ断面圖縮尺五十分ノ一以上
- 四、人孔、燈孔、通風器、防臭瓣裝置、排水唧筒、沈澱池、濾過池ノ構造ニ關スル圖面其他必要ナル細分圖縮尺五十分ノ一以上
- 五、一位代價表

六、工費計算書

七、計畫説明書

八、下水道管理ニ關スル規程

九、歳入出豫算書

十、起工及竣工年月日

第二條 實測平面圖ニハ市町村界、市町村名、街路、河川、視形線、其他地形ヲ顯ハスニ必要ナルモノノ排水區劃、沈澱池、濾過池、排出池、排水管、排水渠、人孔、燈孔、等ヲ詳記スヘシ、但排水管、排水渠ノ管徑、幅員ノ異ナルモノハ適宜ノ符號ヲ以テ區別スヘシ

第三條 實測縱斷面圖ニハ計畫線ノ高低、排水管、排水渠ノ勾配、水平距離、河川ノ水位、海面ノ干満潮面等總テ必要ナルモノヲ詳記スベシ

第四條 人孔、燈孔等ノ構造圖ハ断面其他構造ヲ顯ハスニ必要ナルモノヲ調製スベシ

第五條 一位代價表ニハ切取、埋立、石垣「コンクリート」「モルタル」等各種共其一位トナスヘキモノヲ選ミ一位ニ付テ必要ナル材料、人夫等ノ員數及代價賃金ヲ算シ摘要欄ヲ設ケ單價ノ基ク理由ヲ詳記スベシ

第六條 工費計算書ニハ各種工事共各部分毎ニ計算ヲ記スヘシ

第七條 計畫説明書ニハ下水道築造ノ必要ナル理由、地形(接壤地ヲモ含ム)地質、排水スベキ地域及各排水區劃ノ面積其地域及各區劃ノ現在人口及將來増殖スベキ豫定人口、雨水及汚水ノ量、排除方法、幹線選定ノ理由、排水管及排水渠ノ断面計算、洗滌及通風ノ裝置、汚水最後ノ處分法、河川ニ放流スルトキハ下流飲用者ノ有無、其他苟クモ設計ニ關スルモノハ其算式及事項ヲ詳記スヘシ

第八條 下水管理ニ關スル規程ニハ下水道ノ修繕、掃除及下水道又ハ市ノ義務ニ屬スル下水道法第三條ノ施設ト土地ノ所有者使用者義務ニ屬スル施設トノ連結等ニ關スル必要ノ事項ヲ規定スベシ

第九條 圖面ハ總テ蠟布ヲ用ヒ計畫線路構造等ヲ識別スルニ容易ナラシムル爲メ彩色ヲ施シ設計者ヲシテ署名捺印セシムベシ